



Development of a pediatric dermatology screening tool based on two parent-reported skin symptoms: Comparison of parental recognition and physician diagnosis of skin symptoms of infants and toddlers

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2021-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中森 (佐藤), 博子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000343

論文内容要旨

しめい 氏名	中森（佐藤）博子
学位論文題名	Development of a pediatric dermatology screening tool based on two parent-reported skin-related symptoms: Comparison of parental recognition and physician diagnosis of skin symptoms of infants and toddlers 保護者が報告した 2 つの皮膚関連症状に基づく小児皮膚科スクリーニングツールの開発：乳幼児の皮膚症状の保護者の認識と医師の診断の比較
<p>抄録</p> <p>目的：本研究の目的は、母親が子供の皮膚の状態を評価するためのツールを開発することであり、最終的には小児皮膚科スクリーニングツールの開発により乳幼児の一般的な健康診断に広く利用することを目標としている。</p> <p>方法：本研究は、2018年12月から2019年3月までの間に皮膚科クリニックを受診した乳幼児200名の保護者を対象とした、日本における単施設横断的研究である。保護者（母親）には、乳幼児の皮膚症状、かゆみ、睡眠状況に関する認識と QP9 (The Quality of life in Primary Caregivers of children with Atopic Dermatitis questionnaire) の QOL 評価 9 項目を含む項目について自記式調査票に記入してもらった。主治医には、乳幼児の皮膚症状と保護者より聴取した過去に行われた治療法について記入してもらった。主治医が指摘した皮膚症状の重症度をゴールドスタンダードとして、保護者が報告した 3 つの認識項目（皮膚症状、かゆみ、睡眠状況）と比較検討して、最適なカットオフスコアを明らかにした。</p> <p>結果：配布された 200 枚の保護者アンケートのうち、198 枚（回答率 99%）が回収され、医師の記録 198 枚（回答率 100%）の回答とともに分析した。最適カットオフスコアは、かゆみと睡眠状況の 2 項目合計スコア（範囲 0～6 点）を 0～2 点/3～6 点に区分したところであり、感度 73%、特異度 64%であった。また、上記カットオフスコアで分類した 2 群間では、QP9 スコアにおいて有意差がみられた。</p> <p>結論：皮膚炎を持つ乳幼児の保護者から報告された 2 つの症状に基づいた乳幼児用スクリーニングツールを開発し、その精度と基準関連妥当性を確認した。このシンプルな項目数 2 つのツールは、保護者が児の皮膚の状態をよりよく理解し、スキンケアやサポートを必要とする子供を識別するのを助け、適切なスキンケアのアドバイスを受けることにつながる。そのため、小児のプライマリーケアや公衆衛生サービスの現場で広く利用できる可能性がある。今後、乳幼児健診の一般健診での使用に向けて、本ツールの信頼性と妥当性を検討していく予定である。</p>	

学位論文審査結果

2021年2月16日

大学院医学研究科長様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

Title: Development of a pediatric dermatology screening tool based on two parent-reported skin-related symptoms: Comparison of parental recognition and physician diagnosis of skin symptoms of infants and toddlers

(保護者が報告した2つの皮膚関連症状に基づく小児皮膚科スクリーニングツールの開発: 乳幼児の皮膚症状の保護者の認識と医師の診断の比較)

学位申請者: 中森(佐藤)博子 (国際地域保健学分野)

母親が子供の皮膚の状態を評価するためのツールの開発に向けて以下の横断的研究が行われた。2018年12月から2019年3月までの間に皮膚科クリニック(単施設)を受診した乳幼児200名の保護者を対象とし、保護者(母親)には、乳幼児の皮膚症状、かゆみ、睡眠状況に関する認識とQP9(The Quality of life in Primary Caregivers of children with Atopic Dermatitis questionnaire)のQOL評価9項目を含む項目について調査票に、また主治医には、乳幼児の皮膚症状と保護者より聴取した過去に行われた治療法について、それぞれ記入してもらった。主治医により評価された皮膚症状の重症度をゴールドスタンダードとして、保護者が報告した3つの認識項目(皮膚症状、かゆみ、睡眠状況)と比較検討して、最適なカットオフスコアを明らかにした。

回答率は、保護者99%、医師100%だった。最適カットオフスコアは、かゆみと睡眠状況の2項目合計スコア(範囲0~6点)を0~2点/3~6点に区分したところであり、感度73%、特異度64%であった。また、上記カットオフスコアで分類した2群間では、QP9スコアにおいて有意差がみられた。

この項目数2つのシンプルなツールは、保護者が児の皮膚の状態をよりよく理解し、スキンケアやサポートを必要とする子供を識別するのを助け、適切なスキンケアのアドバイスを受けることにつながり、小児のプライマリーケアや公衆衛生サービスの現場で広く利用できる可能性がある。

本研究は、今後乳幼児健診の一般健診での使用に向けて、本ツールの信頼性と妥当性を検討していく予定とのことであり、さらなる継続研究が期待される。

以上のことから本研究論文は学位論文に値すると判断した。

論文審査委員

主査 山本 俊幸

副査 福島 哲二

副査 陶山 和秀